

講座名（専門科目名）	感染症・免疫学（免疫細胞生物学）	
担当教授	石井 優	
研 究 内 容		
1. イメージング技術を活用した免疫細胞ネットワークの動的解析 2. 様々な臓器・組織における細胞動態を制御する基本原理の解明		
著 者	研 究 業 績	掲載雑誌・巻・号・頁等
Kikuta J, Kawamura S, Okiji F, Shirazaki M, Sakai S, Saito H, Ishii M	S1P-mediated osteoclast precursor monocyte migration is a critical point of control in antibody-resorptive action of active vitamin D.	Proc. Natl. Acad. Sci. USA, 110(17): 7009-13, 2013.
Kikuta J, Wada Y, Kowada T, Wang Z, Sun-Wada G-H, Nishiyama I, Mizukami S, Maiya N, Yasuda H, Kumanogoh A, Kikuchi K, Germain RN, Ishii M.	Dynamic visualization of RANKL and Th17-mediated osteoclast function.	J. Clin. Invest., 123(2): 866-873, 2013.
Kotani M, Kikuta J, Klauschen F, Chino T, Kobayashi Y, Yasuda H, Tamai K, Miyawaki A, Kanagawa O, Tomura M, Ishii M.	Systemic circulation and bone recruitment of osteoclast precursors tracked by using fluorescent imaging techniques.	J. Immunol., 190(2): 605-12, 2013.
Ishii M, et al.	Chemorepulsion by blood S1P regulates osteoclast precursor mobilization and bone remodeling in vivo.	J. Exp. Med., 207: 2793-2798, 2010.
Ishii M, et al.	Sphingosine-1-phosphate mobilizes osteoclast precursors and regulates bone homeostasis.	Nature, 458 (7237): 524-528, 2009.
学生への指導方針	学生に対する要望	備 考
<p>学生に対しても独立した一研究者として扱い、早い時期から自身の研究テーマをもち研究を遂行するように指導する。特に、研究者として必要な自身の独自性を強調することを重視している。一方で、研究は共同作業でもあり、研究知識、技術・ノウハウは教室員の間で共有している。実際の指導としては、週2回の全体ミーティングの他、学生と教授の個別ミーティングを週1回程度行い、研究テーマや進捗状況、プランについて徹底した議論を行う。一方的な指示・指導ではなく、常に議論を通じて学生自身が主体となって研究に取り組むことを指導する。</p>	<p>熱意のある積極的な学生を望む。受け身ではなく、常に自身の頭で考え、疑問を自ら明らかにする姿勢をもつことが望ましい。それと同時に、医学・生物学の研究は共同作業で行うものであり、教室内で協調性をもって研究を遂行することが求められる。学生時代の研究の取り組みが、その後の研究者人生を大きく決定するといって過言でない。特に大学院の期間内は研究に full devotion で取り組んでほしい。</p>	<p>連絡先          TEL: 06-6879-3880          e-mail:mishii@icb.med.osaka-u.ac.jp  <a href="http://www.icb.med.osaka-u.ac.jp/">http://www.icb.med.osaka-u.ac.jp/</a></p>